

絶句（杜甫）

両箇の黄鸝翠柳に鳴き

一行の白鷺青天に上る

窓に含む西嶺千秋の雪

門に泊す東呉万里の船

両箇黄鸝鳴翠柳 一行白鷺上青天
窓含西嶺千秋雪 門泊東呉萬里船

解説 杜甫五十三歳、四川省の成都の浣花草堂で、一家そろって平和な生活を楽しんでいたころの作である。

語釈 ※両箇〓二つ。※黄鸝〓こうらいうぐいす。※一行〓一列。
※白鷺〓白鷺。〓西嶺〓成都の西にある雪山。〓千秋雪〓万年雪のこと。

※門泊〓杜甫の草堂の前を流れる川は浣花溪。その東に万里橋があった。ここが船泊まりで、東へ行く船は全て、ここから出た。
※東呉〓いまの長江の下流をさす。

通釈 二羽のうぐいすが、緑色に茂った柳でさえずり、一列になった白鷺の群れが青空の中を飛んで行く。窓からは、西嶺に降りつもった万年雪が、まるで、額縁にでもはめこんだように眺められ、門の前の船泊まりでは、東の呉の国からの船が停泊している。